

施工日数集計マニュアル

株式会社 システムイン国際

目 次

1. 概要.....	3
2. 日当施工量、施工日数の表示.....	3
3. 日当施工量、施工日数の編集.....	4
4. 集計明細の設定.....	5
5. 施工日数の集計.....	6

1. 概要

単価表の日当施工量から施工日数を算出します。

目的別に集計することで、交通誘導員や水替え、仮設材の日数計算にご利用ください。

手順

1. 単価表を計上すると、自動で日当施工量が算出されます。
2. 数量を入力すると、施工日数が算出されます。
3. 現場条件や作業条件を考慮して日当施工量の補正值を入力します。
4. 目的別に集計明細を指定します。
5. 施工日数を集計します。
6. 交通誘導員、水替え、仮設材の日数計算の参考資料とします。

*日当施工量は、基準書に掲載されている「標準的な」数値です。

*基準書に日当施工量が掲載されていない場合は算出されません。

*日当施工量、施工日数は、直接入力することもできます。

2. 日当施工量、施工日数の表示

ツールバーの右端にある「表示項目コンボボックス」から「施工日数」を選択すると、画面上に表示されます。

コンボボックスから「通常表示」を選択すると、元の表示に戻ります。

The screenshot shows the '土木マスター 7' software interface. The title bar reads '土木マスター 7' and the window title is '土木精算 編集 管布設工事/'. The menu bar includes 'ファイル(E)', '編集(E)', '表示(V)', '積算(S)', '実行(R)', 'ツール(T)', 'ウィンドウ(W)', and 'ヘルプ(H)'. The toolbar contains icons for '閉る', '保存', '印刷', '基本', '経費', '自動読込', 'WEB建設物価', '再計算', and '動画'. The '表示項目' dropdown menu is open, showing options: '通常表示' (checked), 'プロパティ', '資料表示', '施工日数' (highlighted), '1-サ-1', '1-サ-2', '1-サ-3', '1-サ-4', '1-サ-5', and '1-サ-6'. Below the menu, the '事業区分' is set to '道路新設・改築' and '間接費表示' is set to '通常表示'. The main table displays construction costs with columns for '名称/規格', '数量', '単位', '単価', and '金額'. The table data is as follows:

本工事費		内訳表									
	1	2	3	4	5	名称/規格	数量	単位	単価	金額	
1						本工事費	1	式	59,469,981	59,469,981	直接
2						管路	1	式	57,592,489	57,592,489	レベ
3						管きょ工(開削)	1	式	57,190,888	57,190,888	レベル2

3. 日当施工量、施工日数の編集

現場条件、作業条件に応じて日当施工量を補正することができます。

施工期間が重複している単価表がある場合、重複期間を控除すると集計日数の精度が向上します。

	1	2	3	4	5	名称/規格	数量	単位	単価	金額	標準施工量	補正係数	補正施工量	施工日数	補正日数
5						管路掘削	1	式	615,600	615,600					
6						バックリウ床掘 BH山積0.8m3(平積0.6m3)粘性土、砂・砂質土、粘性土、障害物土留工切梁腹起方式	1,800	m3	342	615,600	220			8.18	
7						管路埋戻	1	式	1,129,220	1,129,220					
8						埋戻工C【複合】 1m≦最大埋戻幅<4m	740	m3	1,193	882,820	61			12.13	
9						埋戻工D【複合】 最大埋戻幅<1m	140	m3	1,760	246,400	33			4.24	

(画面上には省略名称で表示されています。)

(省略名称)		
標準施工量	日当施工量 標準値	単価表の「標準的な」日当施工数量です。
補正係数	日当施工量補正係数	現場条件に応じて補正係数を入力します。
補正施工量	日当施工量 補正值・入力値	日当施工量 標準値×補正係数 または、直接入力することができます。
施工日数	施工日数	施工日数 = 数量 ÷ 日当施工量 補正施工量がある場合は、補正施工量で計算します。
補正日数	施工日数 入力値	施工日数を直接入力することができます。 入力されている場合は、入力値が集計されます。

編集例

標準施工量	補正係数	補正施工量	施工日数	補正日数
220	0.8	176	10.23	
61			12.13	
33			4.24	2
		54	15.56	

現場条件を考慮して、補正係数「0.8」を入力。
(日当施工量が少なくなります。)

重複期間を考慮して、施工日数を「2」に変更。

補正施工量「54」を直接入力。

*単価表を特別単価表に変換すると、変換前の日当施工量が保持されています。

日当施工量を修正するには、補正施工量(日当施工量 補正值・入力値)に入力をします。

*新規に特別単価表を作成した場合は、自動では日当施工量が表示されません。

必要に応じて、補正施工量(日当施工量 補正值・入力値)、補正日数(施工日数 入力値)を入力してください。

4. 集計明細の設定

目的別に集計明細を設定します。

*集計明細設定例（交通誘導員）

「交通誘導」列のコンボボックスから「集計」を選択します。

交通誘導員の日数計算に必要な施工日数が集計できる単価表に設定します。

標準施量	補正係数	補正施量	施工日数	補正日数	交通誘導	水替日数	仮設材1
220	0.8	176	10.23		集計		
61			12.13		集計		
33			4.24		集計		

*集計明細設定例（仮設材）

コンボボックスから以下の集計設定を選択します。

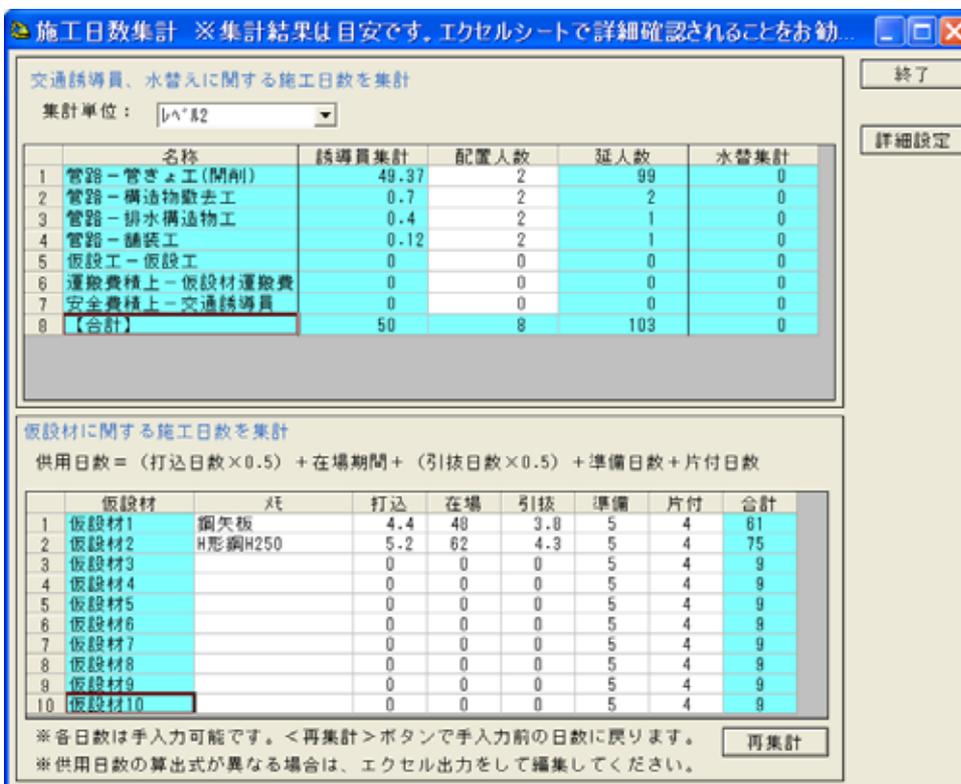
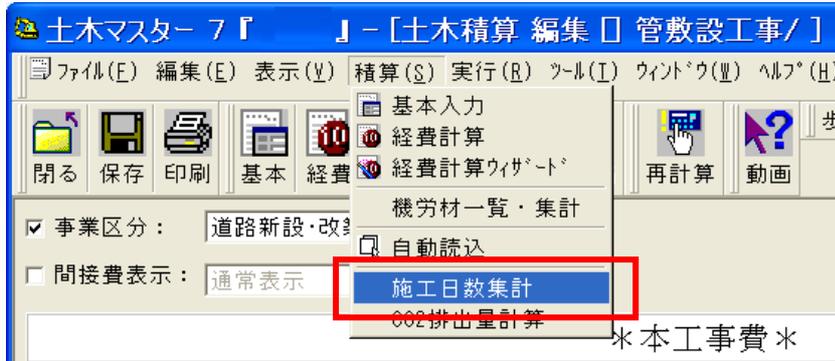
- ・打込：打ち込み単価表に設定します。
- ・在场：仮設材の在场期間が集計できる単価表に設定します。
- ・引抜：引き抜き単価表に設定します。

交通誘導	水替日数	仮設材1	仮設材2
		打込	
		在场	
		打込	
		在场	
		引抜	

仮設材ごとに違う行を集計するために、「仮設材1」～「仮設材10」の集計設定列があります。
必要に応じて使い分けてください。

5. 施工日数の集計

プルダウンメニュー「[積算]」の「[施工日数集計]」を選択します。



*交通誘導員、水替え

集計単位に(レベル1~4)を選択できます。

<詳細設定>ボタンをクリックすると、端数処理の設定画面が表示されます。

*仮設材

メモは自由記入欄です。

画面記載の計算式で、仮設材の施工日数を算出します。

準備日数・片付日数は、5日・4日が初期値で表示されます。

各日数を直接入力して変更することができます。

<再集計>ボタンをクリックすると、直接入力した値を破棄して、設計書から再集計します。